HOSEI 2021 March

後援会だより ～親子でつづる法政の4年間～

4年間を振り返って

法学部 前野 有香

私は、学業と部活動を両立したいという思いで北海道から上京し、法政大学へ入学しました。

4年間を振り返ると、体育会バスケットボール部での活動が一番思い出に残っています。もちろん良い思い出ばかりではなく、苦しいことや大変なこともたくさんありました。監督やコーチが何度も変わり、練習環境が整わず、初めてバスケットをやめたいとも思いました。それでも、何事にもどんなときでも一緒に頑張ってくれる同期がいたからこそ、4年間やり抜くことができました。

私が入部したときからチームの目標は「2部リーグ昇格」でしたが、1～3年次のリーグ戦ではそれを達成できずに終わりました。あっという間に最終学年となり、「今年こそは!」と思っていたときに、新型コロナウイルス感染症が流行し、約3カ月も練習できない日々が続きました。体育館が使えるようになってからも、人数制限をしての練習。今年はもうリーグ戦はできないだろうと思い、落胆していました。しかし、例年とは違う形ではありましたが、リーグ戦を行うことができました。結果的にチームの目標を最後まで達成できずに引退しましたが、コロナ禍の大変な状況の中、試合をすることができ、関わってくださったたくさんの人たちへの感謝の気持ちがより大きくなりました。そして今まで当たり前のようにバスケットを続けさせてくれた親に一番感謝しています。

バスケットボール部の仲間と

感謝と恩返し

文学部 設樂 信隆

「地理の勉強がしたい」との思いで入学した法政大学文学部地理学科。そこでの学生生活は私の期待以上のものでした。地理好きの仲間との、時間を忘れての語らい。北海道や台湾を訪れ、都市形成の話を実際に見聞し学んだ地理実習。これらは私の知的好奇心を想像以上に満足させてくれるとても貴重な経験でした。卒業論文では、3年次の秋からデータ採取を開始し、途中、コロナ禍により思うように進まないこともありましたが、データに基づく分析・解析は、就職してからも業務でのアプローチ手法において大変参考になると思っています。

アウトドアサークル「ローバース部」では、夏合宿「200キロハイク」や無人島での生活など学生時代にしかできない貴重な経験を得ることができました。中でも、行く先々で出会った人々の温かさに触れたことは一生忘れられません。福井県のあわら市長さんは、宿探しに困っている僕らを案じて旅館に声を掛けてくださいました。また、炎天下を歩いていて、見知らぬ方からエールや飲み物などの差し入れを頂いたこともありました。私は、多くの方の「頑張っている若者を応援したい」という気持ちに触れて、人の優しさの尊さを学びました。

私も法政大学で得た経験を生かして、頑張っている現役学生を応援していきたい、それが学生時代にお世話になった多くの方への感謝と恩返しになると思っています。

サークル「ローバース部」の合宿の様子

卒業おめでとう

新居 裕美子

札幌から送り出して、はや4年。小学2年生で始めたバスケットボールを大学でも続け、週6日の練習、学業の合間を縫ってのアルバイト。仲間に恵まれ、支えられて乗り切れましたね。

航空関係の仕事に就くためにゼミにも参加し、途中まで進んでいたにもかかわらず、コロナ禍で志望業界を変更せざるを得なかったのは大変だったと思います。

これからも法政大学で学んだことを生かし、人生を豊かに楽しく過ごしてほしいと願っています。本当に卒業おめでとう。

社会へ旅立つ君へ

設樂 修一

「今しかできないことをやりたい」と、さまざまなことにチャレンジしていた学生生活。久しぶりに会うたびに、親の知らないところで人間的に成長しているのを実感した4年間でした。卒業が近付くと「やりたいことは全てやったので思い残すことはない」と、学生から社会人への気持ちの切り替えを見せて安心させてくれました。

これからは大学生活で培った、かけがえのない経験と自ら勝ち取った自信を糧に、若者らしいチャレンジ精神を忘れず、自分の信じる道を進んでほしいと願っています。

※(　　)内は子どもの名前／学部

自分の生きる道

経済学部 村上 直

自分の生き方を東京で探したい、という思いで入学してからの4年間。多摩キャンパスはイメージしていた東京とは違っていましたが、多くのことを学び、経験し、多くの人と出会うことができました。それらは私の視野を広げてくれ、自分なりの生きる道を少しは見つけられたと思います。

大学入学前は、人の役に立たなくてはいけないという強迫観念のようなものから、社会人としての仕事を探さなければと考えていました。自分の価値を決めるのは他人であり、多くの人々に感謝されることで、自分の存在価値が生まれると思っていたからです。しかし、大学でさまざまな学問や価値観に触れたことで、自分の思っていた他人は不確定でぼんやりとしたものであると感じ、自分の価値の判断基準がとても曖昧なものであったと気付きました。そこで就職活動においては、分からないことを考えるより、自分のやりたいことを優先的に考え、SE職に就くことになりました。プログラムに関しては未経験での就職なので、多くの壁にぶつかることになると思いますが、大学での4年間の経験に助けを借りて乗り越えていきます。

地元から大学に送り出してくれた両親には感謝しています。好き勝手に生きていた自分を信用し、快く大学に入学させてくれた恩は必ずお返しします。これからも好き勝手に生きていくと思いますが、温かく見守っていてください。

友人との思い出(高尾山にて)

自分を見つめた4年間

人間環境学部 庄司 正樹

私が法政大学の受験を決意したのは、オープンキャンパスに参加した高校2年のときでした。地元大分県とはまるで違う、飯田橋という東京の中心地の迫力と外濠の自然が融合した素晴らしい環境に圧倒されたことを今でも覚えています。母が法政大学出身ということもあり、幼少の頃から大学のことは耳にしていましたが、実際に自らの目で見て、学部の説明を聞いて、これからの社会にとって重要なことを学べる学部だと確信しました。

高校ではさまざまな困難もありましたが、念願の法政大学に入学でき、ゼロからの東京生活がスタートしました。テニスサークルでは個性豊かな先輩方に囲まれ、和気あいあいと大学生のときにしかできない多くの思い出を共有できました。

また、人間環境学部では、実際に現地へ行き、私たちが置かれている自然環境を肌で感じ、さまざまな体験から自らの問題意識を高めるフィールドスタディという実習がありました。梶裕史教授の「石垣島・白保におけるサンゴ礁文化継承のとりくみ」では、シュノーケリングや農作業などさまざまな角度から現地学習を行いました。その中で、人と自然の調和を意識した考え方が、自然を保護する上で重要であると学びました。これらの学びが就職先を選択する上での軸となりました。

4月から始まる社会人生活では、これまでの私を育んでくれた多くの方々への感謝を忘れずに活躍します。

石垣島でのフィールドスタディにて

卒業に寄せて

村上 哲彦

遠く愛媛から息子を送り出して、はや4年。朝はちゃんと起きられるだろうか、ちゃんと食べているだろうか、などと妻と2人でやきもきしながら心配していた日々がついこの間のようです。

そんな息子も、卒業の日を迎えることとなりました。体があまり丈夫でなく、一人暮らしをさせるのは不安でしたが、心身共に強く成長した姿を見て、思い切って送り出して本当に良かったと思っています。

春からはいよいよ社会人。これまでの経験と学びを糧に、豊かな人生を送ってほしいと願っています。卒業おめでとう!

社会へと羽ばたく息子へ

庄司 ヨシ子

卒業おめでとう。4年前の入学式、日本武道館での校歌斉唱は、入学までの多くの困難を乗り越えたあなたの努力を回想させ、感慨深く、私の忘れられない思い出となりました。

就職活動の大切な時期に校内に立ち入ることさえできない中、内定の報告をしてくるあなたに確かな自立・成長を感じ、遠い大分の地で胸をなで下ろしたものです。学部で学んだ環境を根幹として選んだ会社で、これからも飛躍してくれると確信しています。他者を思いやり、大切にできるあなたは私の誇りです。これからも応援しています。

思い出深き大学生活

経済学部
廣島 桃子

法政大学に入学して素晴らしい仲間に恵まれ、入学時には想像もしていなかった濃い時間を過ごすことができました。

学業面では、菅原琢磨教授のゼミで医療経済について研究しました。3年次に参加した他大学との合同研究発表大会では、地域医療費削減のために「高齢者の入院医療費」について研究を進め、菅原教授のアドバイスを基にゼミ仲間と切磋琢磨して発表間際まで考察を重ね、納得のいく結果を追究しました。その努力が実り、発表大会で最優秀賞を受賞したときの達成感は忘れられません。

また、ドイツ文化研修旅行は、法政大学の「実践知」を国外で得る機会となりました。新田誠吾教授の企画でドイツ各地を約2週間巡り、壮大な建造物、本場の料理、カーニバルの活気など、どれもみな輝いて見えました。新田教授からは語学だけでなく文化や風習などもご教授いただき、それら全てが現地の方々とのコミュニケーションの足掛かりとなり、親密な交流につながったことは一生の思い出です。

卒業に当たって、ゼミ以外でもよく集まって笑い合った同期、つらいときには支えとなり私の学生生活を豊かにしてくれた友人たちに感謝を伝えたいです。そして、そんな素晴らしい仲間に出会い、たくさんの学びを得られた法政大学に通わせてくれた両親には感謝してもし切れません。これからは社会人として「Keep moving forward」を胸に頑張ります。

ドイツ、フライブルクのカーニバルにて
（2019年3月）

大学4年間の出会い

社会学部
金子 真澄

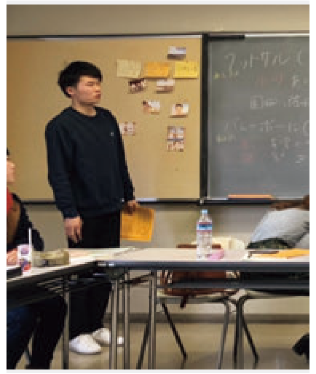
高校まで10年以上野球を続けていた私は、入学時は新しいスポーツをしたいと思っていました。しかし、社会学部に入学し、大学生だからできることをしたいと考え、スポーツ主体で大学生活を送るのではなく、いろいろなことに挑戦する4年間を送りたいと思うようになりました。

1年次は、海外ボランティアに参加し、ボランティア団体に加わって現地の方々の話を聞きました。ところが、国外の事情を知らなすぎてほぼ体験で終わり、力になれるどころか日本についても詳しく知らない自分が恥ずかしくなりました。この海外ボランティアをきっかけにアジアに興味を持ち、2年次から国際社会の問題をテーマにしたゼミに所属しました。

2・3学年の合同ゼミでは、アジアの政治経済、環境問題、文化、ジェンダー、教育などを幅広く学びました。自分の経験や思いを自由に共有でき、吉村真子教授からもアドバイスを頂き、とてもよい環境で勉強できました。

4年間を振り返ると、付属高校からの友達、ゼミの吉村教授、好きな授業を一緒に受けた同級生、アルバイト先の先輩など、スポーツ以外の交流が増え、今までは関わるのが難しかった方々ともつながりができたことが大きな財産です。

4月からは社会人として新生活が始まります。不安や緊張、楽しみ、いろいろな思いがあります。大学生活の学びを糧に周りの方々への感謝を忘れず、人間として成長していきたいと思います。



幅広く学んだ吉村ゼミにて

卒業おめでとう

廣島 映一

あっという間の4年間でしたね。よき師、よき友に出会え、充実した時間だったと思います。

振り返れば、ゼミ、課外活動、就職活動と、自ら道を選択し、悩みながらも解決して前へ進む力を培ってきましたね。

特に課外活動では、私の趣味と同じ合唱に打ち込み、コンクールで全国大会に出場したことも、練習で重ねた苦労とともに良い思い出だと思います。

卒業おめでとう。「自由を生き抜く実践知」の学びを胸に、社会の一隅を照らす企業人になってください。心から応援しています。

卒業に寄せて

金子 裕子

付属高校から7年間、法政大学に関わらせていただき、とても感謝しています。吉村教授のゼミやボランティアサークルの活動を通してよき師、よき友と巡り合い、充実した学生生活を送れました。春からは、学んだことと努力したことを生かして社会に貢献できる人になってください。

後援会活動では、田中優子総長の講演があった多摩キャンパスの父母懇談会が心に残っています。3人の子どもたちのおかげで、後援会創立80周年の記念式典に出る夢がかなうかもしれません。ありがとう。

総長・学内理事と後援会との懇談会報告

後援会総務
西山 広二郎（裕人／デザイン工学部）

2020年11月25日（水）、18時30分よりボアソナード・タワー26階A会議室において、総長・学内理事と後援会との懇談会が開催されました。本懇談会は、大学と後援会が直接、情報および意見を交換できる大変貴重な機会です。大学からは田中優子総長と7人の常務理事が出席され、後援会からは運営委員が出席しました。このような時期ではありますが、後援会事務局の方々の準備により万全の感染防止策が取られた中、対面形式により開催されました。

懇談会の主な内容は次のとおりです。

①清水伸行後援会会長の挨拶

②田中総長より、ご挨拶とコロナ禍の大学の対応についてのご説明

直近の話題では、市ケ谷キャンパスの法政祭について。来場者の人数を制限して開催され、学生主導でルールを守りながら運営。模擬店はなかったものの、学生らしい取り組みができ、成功裏に終了した。等

③廣瀬克哉常務理事より、コロナ禍での学部授業についてのご説明

春学期は、先生方も試行錯誤しながらオンライン方式による授業を進めていく中で、授業体制を整えていった。

秋学期は、学部により異なるが、実験、実習、演習系の科目を中心に少しずつ対面授業を再開している。等

④熊田泰章常務理事より、海外留学に対する大学の対応についてのご説明

新型コロナ感染症拡大後、まずは海外に留学中の学生を日本に帰国させた。また、外国人留学生への対応、今年度のスタディ・アブロード（SA）の中止、オンライン留学の試みなどについて。等

⑤近藤清之常務理事より、就職活動についてのご説明

キャリアセンターは現4年生の就職活動支援において、緊急事態宣言下のキャンパス入構禁止措置期間中、対面式相談に代わり、オンライン、電話にて相談を受けてきた。学生の内定率は、例年に比べると遅れ気味ではあるが、例年どおりの数値に近付きつつある。キャリアセンターの対応としては、従来、内定を得ていない学生と企業とのマッチング作業を、例年は10月から実施のところ、2カ月早めて8月から実施した。

現3年生の相談件数も増加、特にインターンシップについての相談が多い。等

短い時間ではありましたが、今年度初めて大学トップの方々と対面形式で懇談することができ、とても有意義な時間となりました。その中で大学のコロナ禍における活動を生の声で確認でき、また、大学側がしっかりとした対応をしてくださっていることに安堵いたしました。

まだまだ予断の許さない状況が続きますが、これからも大学と後援会がより一層連携し、学生の支援のために活動してまいりますので、ご支援のほどお願いいたします。

新型コロナウイルスの感染が収まらない中、今回の懇談会に応じてくださった大学関係者の皆さま、準備をしてくださった後援会事務局の皆さまに、心よりお礼申し上げます。ありがとうございました。

大学へ学生支援のための寄付を実施

2020年11月14日（土）の後援会臨時総会で承認された2020年度修正予算を受け、後援会はコロナ禍の困窮学生に対する支援を行うべく、大学の「新型コロナウイルス感染症禍に伴う家計急変奨学金事業」への寄付4135万円を実施しました。11月25日（水）の寄付贈呈式では、大学より後援会に感謝状が授与されました。

2020年11月25日の寄付贈呈式
田中優子総長（左）と清水伸行後援会会長（右）

大学から授与された、
寄付への感謝状

感謝状
法政大学後援会殿
法政大学 総長 田中優子

法政大学後援会事務局　TEL：03-3264-9350　E-mail：koenkai@hosei.ac.jp　後援会ウェブサイト https://www.hosei-koenkai.org/